

第4分科会 「都市防災」～明日の防災戦略を考える

基調講演



京都大学防災研究所 河田恵昭 教授

●講演要旨

第4分科会の第一部は、京都大学防災研究所巨大災害研究センター長の河田恵昭教授による「これからの都市震災対策～市民一人ひとりの立場から～」と題し、今後の防災対策の方向性について下記の論点により、基調講演をいただいた。

1. 災害における社会性の増大

近年、災害の全過程に社会性の影響が顕著になっている。地震災害の予知・予測技術の未確立や地球温暖化に伴う風水害の多発など誘因となる外力、そして、都市化、一極集中など社会の防災・減災力の低下が、被害の拡大の要因になっている。

2. 都市震災対策の誤り

1923年関東大震災を原点に、震災対策は火災対策であると誤解した。また、防災対策を震災が起こる前に実施する理工学的課題として誤解し、土木、建築が対策の中心となってきたが、この間の都市計画、土木計画の失敗の反省がない。

3. 都市震災対策の再度の誤り

1995年阪神・淡路大震災を原点に、情報の活用や精度良く地震予知・予測すれば被害が少なくなると誤解した。また、危機対応システムを整備すれば災害対応が円滑に進むと誤解した。

4. 近年に発生が危惧される巨大地震災害

- ・首都直下地震災害
- ・東海・東南海、南海地震災害の発生
- ・大阪、京都、奈良市の地震災害
- ・宮城県沖地震災害

このため、被害抑止（ハードな対策）と被害軽減（ソフトな対策）による防災対策と被害の拡大を抑え、被災した社会を早く安定させる減災対策が必要であり、「災害は起きる」ことを前提に総合防災・減災システムを構築することが求められている。また、防災・減災の主役は誰か。従来は、エンジニアと考えられていたが、阪神・淡路大震災以降、それは「市民」であることが明確になったことなど、具体的な事例を紹介しつつ、今後の防災対策のあり方を提言されました。



講演風景



会場風景



会場風景

パネルディスカッション



討論風景

●パネルディスカッション要旨

第2部のパネルディスカッションは、北海道大学の岡田成幸助教授、防災特別委員会の山口豊副委員長、近畿支部の山田俊満建設部会長ら3人のパネリストに加え、基調講演の河田恵昭京都大学教授にも参加をいただき、北海道技術士センター防災研究会からはコーディネーターとして高宮則夫会長、説明員として城戸寛副幹事長が参加して、以下の論点で開催されました。

1. いま都市が危ない
2. 今後の都市防災に戦略はあるのか
3. 今後の都市防災と技術士の社会貢献

岡田助教授から十勝沖地震を踏まえた北海道の現状と今後の課題、山田副委員長から米国の防災対策と東京いのちのポータルサイトの取り組み、山田部会長から都市災害に備える技術者の会の活動状況などが紹介された。河田教授からは、防災戦略としての目標設定とアクションプログラムの重要性が提起されました。

●まとめ

分科会テーマである「都市防災～明日の防災戦略を考える～」の方向性として、

1. ハード型防災に加えてソフト型減災によるリスクマネジメントの構築が重要である。
2. 災害時における自助・共助・公助のバランスが重要であり、自主防災とコミュニティの強化が求められる。
3. 住民と行政、専門家のネットワーク構築と適切なコミュニケーションの形成が必要である。

の3点についてまとめられ、防災・減災に向けた技術士の社会貢献として、以下の「札幌宣言」が採択されました。

1. 防災特別委員会を常設委員会とし、全国各支部との防災ネットワークを強化・構築する。
2. 2005年、北海道技術士センター防災研究会の創立10周年を記念し、札幌で「仮称全国防災連絡会議」を開催する。



第4分科会コーディネーター 高宮則夫 技術士



パネリスト 北海道大学 岡田成幸 助教授



パネリスト 山口 豊 技術士



パネリスト 山田俊満 技術士



右から 河田恵昭 教授、高宮則夫 技術士、城戸 寛 技術士